

23日(木)の学習発表会・学級懇談会、そして24日(金)の探究発表会と、連日の来校またオンラインでのご参加ありがとうございました。子どもたちはこの2日間で発表に対して自信を持ったり、お互いの発表を見合って課題や刺激を感じたりしたことと思います。第2クォーターが終わり、ちょうど3年生の学校生活も折り返し地点です。第3クォーターでは、一人一人が長所を伸ばしつつ苦手なことにも向き合うこと、そしてクラスや学校に属する一員として、「全体に対する個人の意識」を持ち、学年目標である「考動：自ら考え行動、判断できる児童」を目指して生活できるよう取り組んでいきたいと思っています。

## 学習発表会・学級懇談会

23日(木)の学習発表会・学級懇談会に来校いただきありがとうございました。祝日開催のため、第1クォーター以上にたくさんの保護者の方にお越しいただけたことを嬉しく思いました。直接お話ししたり、学級懇談会で家庭学習について評価いただいたりと、教えていただいた保護者の皆様のお考えや提案は、第3クォーターからの学級指導や授業の参考にさせていただきます。

学習発表会に向けては途中オンライン授業が入った分、その期間準備を進めることに非常に苦労しました。ただ Discover クラスの子たちは、それぞれ自宅からしっかりと発表原稿を準備したり、練習したりしていたので、登校再開後のリハーサルの時点で発表自体は完成している子が多く、あとは緊張との戦いだったと思います。リハーサルでは覚えた言葉が飛んだり、声が小さかったりと不安材料もあった中、朝登校してからも廊下で練習する姿に本番に向けた強い気持ちを感じました。Explorer クラスの子たちもオンライン授業中にセリフの練習はできたものの、劇への挑戦だったため動きをつけたり、セリフのタイミングを合わせたりは登校してからでないと合わせられないため、とても苦労していました。そんな中での本番は、多くの児童や保護者の皆さんの前で、一生懸命演技をしていたと思います。

第3クォーターの学習発表会はプロジェクト[12/21(火)]、そして第4クォーターは探究の学習発表会[3/17(木)]となります。是非今から予定を空けていただき、たくさんの保護者の皆様にご参加いただければと思います。

## 探究発表会

3ヶ月間に渡って行ってきた第2クォーターの探究が、24日(金)の発表会で一つの区切りを迎えました。当日が近づくとつれ、朝の My Time の時間に Keynote を修正したり、見て欲しいと持ってくる子が増えたり、また当日の朝は他の教室でモニターに繋いで練習する姿がたくさん見られるなど、前日の英語学習発表会同様、主体的に準備をする姿が見られました。

学級懇談会でお伝えした通り、今回14名が発表したテーマは、好きな生き物や素朴な疑問もあれば、3年生とは思えない社会問題について取り上げるなど、本当に個性豊かなものでした。当日の発表はご覧いただきました通り、やらされているような雰囲気な子はおらず、緊張しつつも生き生きとした姿で発表していたと思います。声の大きさ、聞き手への視線、言葉の選択、スライドのレイアウト、質疑応答のやり取りなど、挙げ出せばキリがないほど課題はたくさんあります。ただ今回の目的である「みつける→しらべる→まとめる→伝える」の探究のプロセスを経験すること、そして人前で表現することについては、一生懸命取り組み今後の学習につながる大きな経験になったと思います。3年生として1年間のゴールは3/17(木)の探究の学習発表会です。それに向かってクォーター休み期間中からテーマを再検討することになっています。第3クォーターでも、是非とも保護者の皆様には子どもたちや私たちと一緒に探究に取り組んでいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 鈴木先生より ～第2クォーターをふりかえり～

第2クォーターでは、図工・体育共に子どもたちは「仲間と協力する」という大切なことを学び、大きく成長する機会に恵まれました。特に、体育の授業でそのような機会に恵まれたと強く感じます。体育では、ラケットベースボールを当初の予定よりも多く行いました。というのも、オンライン授業の関係で、この単元に十分に触れられなかった子が何名かいたからです。この授業はとても人気の授業になり、多くの子どもたちが「今日もラケットベースボールやるよね？」などとお昼ご飯前に確認してくるくらい盛況でした。しかし、いざ授業をするととなると喧嘩やいざこざの連続でした。「勝った側のチームが、僕たちをバカにしてくる」「同じチームで戦っているのに、全然作戦を話し合うのに協力してくれない」などの不満が挙がっていました。そこで、子どもたちと意識をしたのが、「スポーツマンシップ」です。最初は慣れませんでしたでしたが、意識し続けることで、勝ち負けに関係なく相手を讃える大切さを、次第に学んでいくことができました。また、チーム内で協力することや、助け合う心を育むことができました。

印象的なエピソードがあります。ある授業で、一人の子が自分のチームに対して「このチームは弱い」と言ってしまう、それを聞いたある子は傷つき、ある子は憤慨するということがありました。そのチームは負けている状況にあり、最終的に結局負けてしまいました。授業が終わって、もやもやを抱えた子たちが「どうしてあんなことを言ったのか、その子と話したい」と相談してきたため、私たちは授業後に集まって話し合うことにしました。話し合いには、暗い顔や神妙な顔をした当事者たちが集まりました。(だいたい、こういう時の話し合いは嫌なものだと子どもたちも察しています。) もやもやを抱えた子は、はじめにこう聞きました。「どうして、自分のチームなのに弱いなんて言ったの？傷ついたよ」と。その子はすぐに「弱いと思ったから弱いと言ったんだ」と意地を張って返します。私は、これは両者の終わらない喧嘩になりそうだと判断し、言葉を変えて「本当は、なんて言いたかったのかな？」と聞いてみると、しばらくの長い沈黙が続きました。そして、ゆっくりとその子は口を開き「・・・自分が一番あの中でも弱かったんだ」と言いました。本当は弱い自分をなんとかしたかったけど、言葉が見つからずひどい事を言ってしまったと答えたのでした。そこから急に、「そんなことないよ」とか「最初、うまくいかないのは当たり前じゃないか」など、さっきまで怒っていた子たちが、その子をフォローし始めました。これには、私は正直驚きました。さっきまであんなに意地を張り合っていたのに、その子の本当の想いを知った途端、助け合うようになり始めたのです。その話し合いでは、お互いにわだかまりを解決し、前を向いて帰って行きました。

スポーツをしていると、どうしても感情が熱くなり、汚い言葉を言ってしまうたり、きつく当たってしまったりすることがあります。それは相手に対しても、なにより同じチームに仲間に対してもそうです。しかし、子どもたちはみな、根底には協力し合う気持ちを持っており、これからもそうした心を引き出せるように、サポートして行きたいと感じました。第3クォーターでは、運動会に向けてダンスに取り組みます。クラス一丸となって、お互いに満足しながら授業を楽しめるよう、子どもたちの成長を応援したいと思います。